

10. 都市鉄道整備等基礎調査

【平成19・20年度 国】

国が、8号線の八潮－野田市間先行整備をケーススタディ路線として調査

調査内容

- 2つの環状路線（東武野田線、JR武蔵野線）と結節する連絡線整備及び八潮駅におけるつくばエクスプレスへの直通運転化の技術的検討
- 上記検討結果を踏まえた、速達性向上施策の実施効果等の検討、まちづくりや他交通モードとの連携に関する検討

調査結果

- 東武野田線、JR武蔵野線とつくばエクスプレスを連絡する路線を整備し、中間駅となる越谷レイクタウン駅に追越施設を設置して急行運行を行うことにより、速達性の向上や連絡線沿線を中心とする鉄道不便地域の解消が図られる
- 八潮駅におけるつくばエクスプレスとの直通運転化により、八潮駅での乗換解消、所要時間の短縮が図られ、より大きな需要規模、利用者便益が期待できることから、効果的な速達性向上施策であると評価される
- 野田市から秋葉原までの所要時間は、「流山おおたかの森」駅でつくばエクスプレスに乗り換える場合のピーク時の約50分に対して、八潮駅乗換えで約12分、八潮駅でつくばエクスプレスに直通運転を行う場合は約16分の時間短縮が見込まれる
- 知見として、「沿線のまちづくりや他の公共事業等との連携を図ることにより事業費の縮減が可能であれば事業性が更に高まることから、今後、関係機関とも連携し、調査において検討した構造形式や施工方法等の深度化を図る必要がある」とされた



八潮－野田市間連絡線整備、TXとの直通運転化は、効果的な速達性向上施策であり、東埼玉道路との一体整備による事業費の縮減など事業化に向けた課題を整理